

## アンケートと訪問調査を有効に行い、活用する方法は何か

### 提言

住民の共感を生み出し、  
担い手を発掘するために  
アンケートと訪問調査を生かそう!!  
「住民主体」、「住民が主人公」を大切に。  
アンケートと訪問調査は、  
住民と一緒に進めていこう!!

### 登壇者

【進行役】	相山 馨氏	富山国際大学子ども育成学部准教授
【アドバイザー】	袖井 孝子氏	お茶の水女子大学名誉教授
	坂上 尚大氏	阪南市第1層SC
	高木 佳奈枝氏	竹田市第1層SC
	斉藤 貴紀氏	対馬市第1層SC

### 議事要旨 相山 馨氏

本分科会では、対馬市、阪南市、竹田市の第1層生活支援コーディネーター（以下、SC）による先駆的な実践事例を通して、会場の参加者とともにアンケートと訪問調査の有効な活用方法について議論した。対馬市からは、75歳以上の高齢者を対象に個別訪問アンケートを実施した結果、ニーズだけではなく、「助け合いの担い手」や「参加したい居場所」を具体的に把握することができたことや、調査結果を地区ごとにまとめ、ワークショップ等で報告することにより、住民自身が自分の地区で取り組むべきことがわかり、助け合い活動が自然に始まったことが報告された。SCとして住民一人一人の声を聴いて共感し、理解することが重要であるということが共通認識された。阪南市では、市全体のニーズ把握のために、要支援者に対するケアマネジャーによる聞き取り調査を実施した後、校区での民生委員による聞き取り調査を実施するという取組が報告された。住民が主体となって調査を実施することによって、住民自らが地域課題に気づき、解決に向けた自主的な話し合いを進められること、SCとしては住民が進める地域づくりをサポートする役割を果たすことが大切であるということが理解された。竹田市からは、訪問調査の実施にあたり、調査員募集のチラシの全戸配布、住民の中からの調査員募集、調査内容確認のための勉強会開催等を行った上で、個別の聞き取り調査を実施したプロセスが紹介された。この調査を行うことによって、調査項目の結果だけでなく、調

査の担い手となった住民が同じ地域で暮らす住民の課題を知るとともに、調査対象者である住民が自分の強みにあらためて気づく機会を得ることができた。住民による調査が、地域づくりの担い手としての住民の意識を生み出す効果があることがわかった。

アドバイザーの袖井孝子先生からは、アンケートや訪問調査の有効な手法について助言をいただいた。「アクション・リサーチ」のポイントや効果的な進め方、ワークショップやグループワークを実施した上で調査項目を決定する手法、質的調査を行った上で量的調査を行う手法、対象者へのフィードバックの方法、調査実施における対象者への配慮、住民のエンパワメントを意識することの重要性を学んだ。また、①地域づくりはやりやすい地域から始めることがコツであり、それは地縁組織の強い地域に限らず、外から住民が入る新しい地域でも可能であること、②アンケートや訪問調査は住民が主体となって行うことが大切であり、住民と一緒に進めることが担い手発掘に効果的であること、③個別の聞き取り調査の場は住民の共感を生み、住民が地域づくりの担い手として力を発揮できることに気づく機会となることを、議論を通して共有した。そして、アンケートと訪問調査を効果的に進めるには、常に「住民主体」「住民が主人公」という意識が重要であることを共通認識して、分科会を終了した。

### アンケートの結果 参加者概数：37名 回答者数：29名

